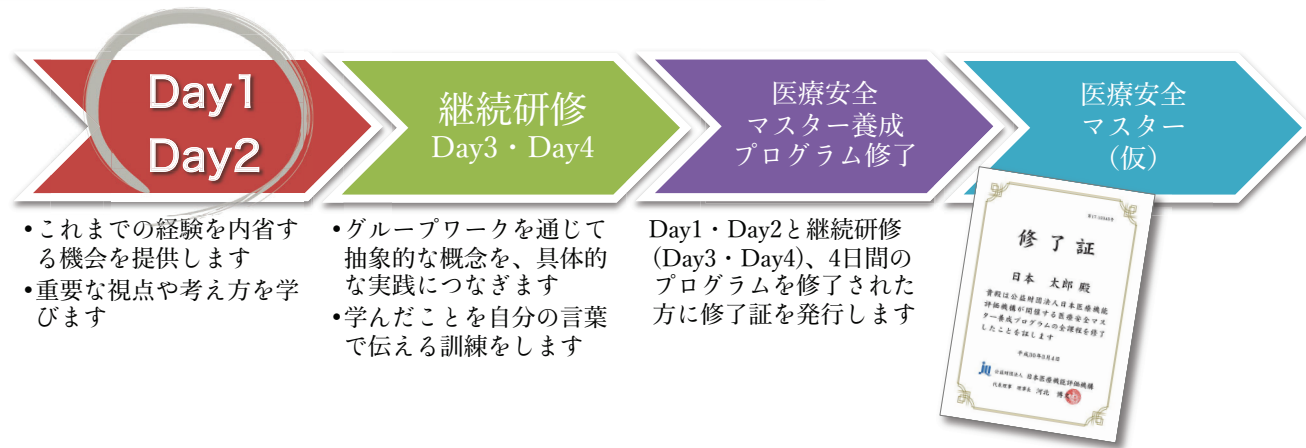


医療安全マスター養成プログラムとは...



医療安全と一緒に語る仲間に出会いたい!
医療安全の実践の力アップを目指したい!
医療安全をもっと体系的・学問的に考えたい!
Web研修の開催方法を参考にしたい!

医療安全マスター養成プログラム Day1・Day2 [第9期] 募集案内

医療安全の「学びほぐし」、しませんか

学びほぐしとは一度学んだ知識や価値観を意識的に捨て去り再び学び直すことをいいます

医療安全に関わる皆様の日々の業務のブラッシュアップと、継続的な学びを支援を目的とした、評価機構が提案する新しい研修の体系です

対象

医療安全に関する基礎を学んだ方

- ・職種は問いません。
- ・下記のいずれかの要件を満たす方を想定しています。
 - ① 医療安全部門の責任者もしくは専従者であること。
 - ② 医療安全対策加算に係る研修(通算40時間以上)を修了済みであること。もしくは相当の知識と経験を有していること。

日程

2023年
2月18日(土)・3月25日(土)
[1日目] 9時30分～17時 [2日目] 10時～16時

形式

上記日程での、Zoomを使った**ライブ配信**
(他、事前に動画をご視聴いただきます)

講師

(敬称略・五十音順)

- 荒井 俊行 (弁護士)
- 筧 淳夫 (工学院大学建築学部 学部長・教授)
- 荒神 裕之 (山梨大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 特任教授)
- 瀧本 禎之 (東京大学大学院医学系研究科 准教授)
- 田中 健次 (電気通信大学大学院情報システム学研究科 教授)
- 中島 和江 (大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 教授・部長、病院長補佐)
- 橋本 迪生 (日本医療機能評価機構 常務理事)
- 長谷川 剛 (上尾中央総合病院 情報管理特任副院長)

研修シラバスのテキストマイニングから

定員

50名（先着順）



費用

- 病院機能評価認定病院、又は受審申込済みの病院にご所属の方 66,000円（税込）
- 上記以外の医療機関にご所属の方 88,000円（税込）

※一旦お振込いただいた費用は原則としてご返金いたしかねます。

申込

7月1日(金)10時～ ウェブからお申し込みください

- ① 検索サイトで「医療安全マスター養成」を検索してください。オモテ面左上に記載されているQRコードからもアクセスいただけます。
- ② 病院機能評価事業ホームページ (<https://www.jq-hyouka.jcqh.or.jp/>)内の「教育研修>医療安全アドバンスコース」に移動します。
- ③ 「お申込みはこちら」ボタンをクリックし、詳細をご確認の上お申し込みください。

科目

オーガナイザー：長谷川 剛

- 事前動画視聴+当日質疑応答
- ◆当日ライブ講義+質疑応答

[1日目] 2月18日(土) 予防的安全管理

科目・テーマ	講師（敬称略）
◆医療の安全とは	橋本 迪生
◆施設・環境・設備のマネジメント	筧 淳夫
□医療安全・患者安全に通底するもの	田中 健次
◆医療チームや組織等へのレジリエンスの実装	中島 和江

[2日目] 3月25日(土) リスクが顕在化した後の安全管理

科目・テーマ	講師（敬称略）
□予期せぬ有害事象への具体的対応 ～臨床倫理の観点から～	瀧本 禎之
□予期せぬ有害事象への具体的対応 ～医療メディエーションと価値共創～	荒神 裕之
◆予期せぬ有害事象への具体的対応 ～法的観点から～	荒井 俊行
◆パネルディスカッション： 予期せぬ有害事象への具体的対応	荒井・荒神・瀧本
◆2日間の振り返り	長谷川 剛

※科目・タイトル名や進行順等、ライブ配信当日のプログラムは変更となる可能性もございます。予めご容赦ください。

研修の特徴 ～先輩の声から～

1. 講師や受講生との対話を大事にしています



組織の規模や地域、立場によっても活動内容や考え方が大きく違うことを感じました。それぞれの立場からの講義内容に対しての意見交換をすることで自分自身の活動に役立つヒントをたくさんもらえました。

☞ 理解を深め多様な視点から考えていただけるよう、講義だけではなく対話の時間も数多く設けています

2. 医療安全に役立つ専門的で最新の知見を学べます



専門的な講義を受講し大いに刺激を受けました。今まで何となく「改善しなくては」と考えていながらも取り掛かりに悩んでいたのですが、研修を通じて実践の場で取り組むヒントを沢山いただくことができました。講義は超専門的であるのに、即実践に活かすことができ、私にとっては全く新しい体験です。

☞ レジリエンスや医療メディエーションといった、理解しておきたい重要な理論や考え方を学べます

3. 日常で直面しがちな課題へのアプローチが変わります



倫理的な視点で事例を見るようになりました。院内のラウンドも以前より努めていくようになり、上司だけではなくスタッフの意見にも耳を傾けるようになりました。

医療安全の考え方について、物の管理やシステムエラーの点から考えられるようになりました。今後の医療安全は変わらなければならないということを考えさせられました。

複雑系として物事をとらえようとしています。PDCAを回し、実施したことの評価をどのように把握し次につなげていくか、具現化することはとても難しいので、まずは物事の捉え方から変えていこうと思います。

☞ 日常の業務で直面しがちな倫理的課題や法的課題を紐解くための基礎的なポイントを学べます

4. これからの医療安全に必要な学びが見えてきます

倫理学と心理学の本を読み始めました。また、院内でのダブルチェックの見直しに向けて、チームで勉強会を行いました。

記録については「裁判や開示に耐える記録を」と言い続けてきましたが、この言葉ではなかなか理解してもらっていきません。講義で学んだ「法的な視点から求められる記録」について、スタッフが理解できる言葉で教育を考えていきたいです。

☞ 抽象的な概念も具体的な事例を通して学んでいきます。実践のイメージが付き、今後の学びの方向性が見えてきます

